

令和6年度（2024年度）



「病院専門事務職員」の採用について



公立大学法人 福島県立医科大学附属病院

病院長ごあいさつ



「県民とともに歩む病院 ～健康を支える医療、心温まる医療を目指して～」

福島県立医科大学附属病院は明治4年(1871年)に開設された白河仮病院を祖とする150年近い歴史を有する病院です。その後、須賀川病院、福島県立女子医学専門学校時代を経て、昭和27年(1952年)に新制福島県立医科大学が設置され新たな歩みを始めました。昭和63年(1988年)には杉妻町から光が丘に移転し現在の病院が完成しています。

当院の基本理念は「健康を支える医療・心温まる医療を目指して県民と共に歩む」であります。この基本理念の下、当院は、県内唯一の特定機能病院として、最先端の医療を県民の皆様へ提供する責務を担うとともに、地域医療を充実させ、地域創生に貢献できるような高い見識と多様な能力を有する医療人を育成し、大学部門と連携し新しい医学の創造に結びつく臨床研究に取り組んでおります。そして、その実践により、県民の皆様の健康な暮らしを確保し、病（やまい）克服のお手伝いをするのが、当院の大切な使命であると考えております。

当院のもう一つの重要な役割は、地域医療への貢献です。昨今の新型コロナウイルス感染症への対応においては、福島県、医師会、病院協会を始めとする関係機関の皆様と連携して「福島モデル」を構築し、医療体制の確保・調整にあたっているところです。今後も、県内医療に貢献し、県民に還元する大学病院であり続けることができるよう全力を尽くして参ります。

当院の約650名の医師、約950名の看護師、約600名の技師、事務職員等、全ての職員が、心と力を合わせて患者さん一人ひとりに心の通い合う医療を提供することができるよう、今後も引き続き努力と研鑽を続けて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

**福島県立医科大学附属病院
病院長（医療・臨床教育担当理事）**

竹石 恭知

福島県立医科大学附属病院の概要



- 診療科39科を有する、福島県立医科大学附属の大学病院。
- 病床数778床を有する、福島県唯一の特定機能病院として、県内の高度医療を担う。
- 診療だけでなく、教育、研究機能も有している。
- 東日本大震災以降、県民の多様化・高度化する医療への期待に応えるため、病院機能の充実に努めている。

■ 職員数（令和6年4月1日）

事務系職員166名 医師 640名 看護師 946名 その他技師等 439名

■ 病床数

778床（一般713床、精神49床、結核14床、感染2床）

■ 1日平均入院患者数

577名（令和5年度）

■ 1日平均外来患者数

1,468名（令和5年度 入院中外来受診者を除く）

基本理念

「当病院は、健康を支える医療・心温まる医療を目指して県民と共に歩みます。」

私たち当病院に働くすべての職員は、医療人としての誇りをもって、互いに協力して県民の健康な暮らしの確保と病（やまい）克服のお手伝いをします。

基本方針

- 1 私たちは、高い倫理観のもと、命と人権とプライバシーを尊び、患者さん一人ひとりと心の通い合う安全な医療を提供します。
- 2 私たちは、患者さん一人ひとりのニーズにこたえる最高水準の医療、先進的な医療を提供します。
- 3 私たちは、県民の未来を支える誠実で優秀な医療人を育成します。
- 4 私たちは、地域との連携を重視し、新しい医療、より良い医療を創造します。
- 5 私たちは、日々進歩する医療の成果を県内、全国、そして世界へ発信します。

組織について

● 附属病院（病院長直轄）

（令和6（2024）年7月1日現在）

医療安全管理部、感染制御部、医療情報部、患者サポートセンター、ふたば救急総合医療センター、災害医療部、臨床研究管理部、病院経営戦略部、臨床医学教育研修センター

● 診療科（39科）

循環器内科、血液内科、消化器内科、リウマチ・膠原病内科、腎臓・高血圧内科、糖尿病・内分泌代謝内科、神経内科、呼吸器内科、漢方内科、腫瘍内科、総合内科、呼吸器外科、消化管外科、肝胆膵・移植外科、乳腺外科、小児外科、甲状腺・内分泌内科、甲状腺・内分泌外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、産科、婦人科、小児科、小児腫瘍内科、眼科、皮膚科、泌尿器科・副腎内分泌外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、心身医療科、放射線科、放射線治療科、核医学科、麻酔・疼痛緩和科、病理診断科、歯科口腔外科、救急科、リハビリテーション科

● 中央診療施設（29施設）

検査部、放射線部、手術部、集中治療部

総合周産期母子医療センター、病理部、輸血・移植免疫部

内視鏡診療部、リハビリテーションセンター

救命救急センター、臨床腫瘍センター、臨床工学センター、人工透析センター、痛み緩和医療センター

甲状腺・内分泌診療センター、人工関節センター、遺伝診療部、こども医療センター、脳疾患センター、移植医療部、心臓血管センター、

小児・AYAがん 長期支援センター、がんゲノム医療診療部、生殖医療センター、先端的低侵襲手術センター、呼吸器センター、栄養管理部、材料部、臨床研究教育推進部

- 性差医療センター
- 臨床研究センター
- 診療支援部
- 看護部
- 薬剤部
- 運営・管理部（病院管理課、医事課〔経営企画室、医療連携・相談室（課内室）〕）

事務組織と主な業務内容

病院管理課

- 附属病院に係る人事に関すること
- 附属病院に係る予算及び決算に関すること
- 附属病院の管理及び運営に関すること

経営企画室

- 附属病院の経営、企画に関すること

医療連携・ 相談室

- 患者、家族からの相談に関すること
- 医療及び社会保障制度の相談に関すること
- 地域連携に関すること

災害医療部

- 災害時医療従事者に対する災害医療の教育、研修、訓練に関すること。
- その他災害医療部の運営に関すること。

看護部

- 看護部に係る庶務・経理業務等に関すること

医事課

- 医療収入に関すること
- 物品の取得、管理及び処分に関すること
- 診療報酬に関すること

医療情報部

- 総合医療情報システムの総合的な維持管理・開発に関すること
- 病歴管理業務に関すること

医療安全管理部

- 医療事故防止対策に関すること
- 医療安全管理研修会に関すること

臨床研究管理部

- 臨床研究に係る各種管理、報告、認定に関すること

薬剤部

- 薬剤部に係る庶務・経理業務等に関すること

採用したい人材像

- 当院が果たすべき役割や機能を理解し、組織のミッションに共感できる人
- 責任感を持って積極的に業務に取り組める人
- 常に課題感を持って業務改善、業務改革に取り組める人
- 自己実現、自己成長意欲の高い人
- 大学病院で地域医療を支えるチームの一員として働きたいという情熱のある人



医療を通して地域との絆を照らす

「当病院は、健康を支える医療・心温まる医療を目指して県民と共に歩みます。」

1

休業・休暇制度について

- 年次有給休暇 20日間
※未取得分は20日まで翌年にのみ繰越し可能
- 夏季休暇
- 結婚休暇
- 不妊治療休暇
- 短期介護休暇
- 介護休業 など

2

給与・賞与について

- 給与
給与（大学4年卒（22歳で卒業）の場合）
給料月額 207,100円
※上記給料のほか、超過勤務手当、扶養手当、通勤手当、住居手当等がそれぞれの手当支給条件に応じて支給されます。
- 賞与
期末・勤勉手当（6月、12月の年2回）

3

福利厚生施設について

- 託児所（すぎのこ園）
敷地内に本学で勤務する教職員の就学前のお子さんを預かる託児所があります。延長保育も実施しており、安心して仕事をすることができます。
- 病児病後児保育（すくすく）
お子さんが病気または病気の回復期にあり、集団保育が困難な期間において、一時的に保育士や看護師が保育・看護を行います。
- 食堂、コンビニ、パン屋、コーヒーショップあり。

4

研修制度について

- 新規採用職員研修（採用1年目に2回）
- 2年目研修、4年目研修、8年目研修
- 選択研修
本人の希望に応じて、各種研修を受講可能
例 エクセル講座、メンタルトレーニング講座、コスト意識改革研修、折衝・交渉力養成講座
- 簿記などの、資格取得支援制度あり

先輩社員の1日

8:30

出勤・メール確認

出勤後、メールチェックを行いました。係宛、個人宛に来るメールを確認し、対応漏れや見落としがないように気をつけています。

10:00

照会対応業務、定例会議出席

照会業務に対応後、院内の定例会議に出席しました。必要に応じて議事録を作成しています。

12:00

お昼休み

院内の食堂で食事したあと、コーヒーショップで同期と近況報告をしてリフレッシュしました。

13:00

資料作成

説明会で使用する資料を作成しました。同僚にも意見をもらいながら作業を進めることを意識しています。

15:00

業者との打合せ

委託先と打合せを行いました。

17:15

退勤

翌日の予定を確認したあと、退勤しました。メリハリをつけて働くことを心がけています。

